

博物館だより



No.129

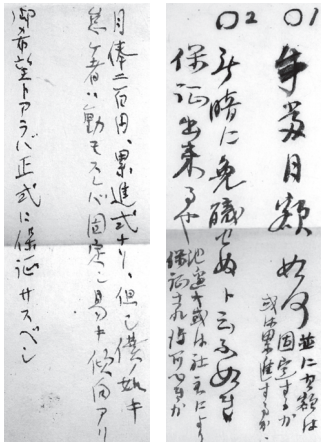
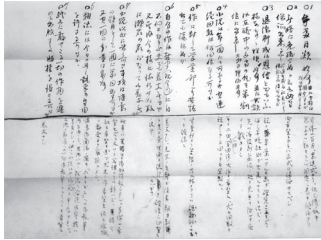
平成29年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館新展示「ここに注目！」 小宮豊隆資料 「漱石コレクション」 Vol.16

今年（なつめ）は夏目漱石生誕150年。没後100年の昨年に続き、文豪ゆかりの事物は注目の的。博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。

●夏目漱石の朝日新聞入社条件交渉メモ
明治40年4月、夏目漱石は東京帝大講師の職を擲ち、朝日新聞所



▲上：入社条件交渉メモ（一問一答式）
下：漱石の質商（右）池辺の回答（左）

属のプロ作家としてデビューします。創作への意欲は権威と安定の象徴である大学教授の職を擲つに値するとした漱石の決意は並々ならぬものがあつたといえます。その裏付けの一つとなるのが上記メモで、この時の漱石は入社条件を極めて慎重に瀬踏みしています。これに誠意とユーモアで応えたのが当時の朝日新聞主筆 池辺三山で、漱石を破格の待遇で迎えることを約し、実際に最後まで漱石を庇護したことから、漱石のプロ作家デビューが確定したのです。

◆平成29年度 博物館企画展 第11回向井澄男写真展

当館では7月19日（水）から8月31日（木）まで、故・向井澄男さんの写真展を開催しています。



▲盆神楽（扇谷・帆柱神楽講）

不動XI — 豊前神楽 —

11回目を迎える今回のテーマは「豊前神楽」。昨年、国の重要無形民俗文化財、すなわち「ニッポンのたから」に指定された、ふるさとを代表する民俗芸能の輝く瞬間を捉えた貴重な映像をじっくりご覧下さい。

●場所 当館企画展示室
●観覧料 常設展の観覧料
（大人100円・高校生以下は100円）
でご覧いただけます。
※詳しいお問合せは博物館まで！

◆博物館NEWS

8月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
8月5日（土） 9時30分～

【古文書講座】
8月12日（土） 10時00分～

【古典かな講座】
8月19日（土） 9時30分～

【みやこ学講座】
8月20日（日） 13時30分～

※日程等変更となる場合があります

文化の「みやこ」づくり記念 絵画・作文コンクール作品募集！

博物館では京築地区に在住・通学する小中・高校生を対象に、ふるさとの歴史と文化ゆかりの絵画・作文コンクールを行います。絵画は「わたしの町の過去・現在・未来」をテーマに、作文は「歴史」をテーマに募集します。（ただし、作文は小学5・6年生のみ対象）
詳しい応募方法等は博物館の窓口（☎33-4666）へお問合せを！



▲昨年の絵画コンクール・グランプリ作品「みやこ町三重塔」

夏休み「モノづくり」体験教室

鉱物標本を作ろう！

日時：8月20日（日）13:30～
場所：博物館研修室
参加条件：みやこ町在住またはみやこ町の小学校に通学する児童

*1～3年生は保護者の同伴が必要です

先着40名まで！

申し込みは博物館（☎33-4666）へ！



▲身近な鉱物を楽しく解説（昨年の体験教室の様子）

鉱物・岩石の標本				
花崗岩 かこうがん 山口県宇布市	安山岩 あんざんがん 大分県由布市	石英 せきえい 宮崎県日之影町	長石 ちやうせき 福岡県川崎町	活性炭 くわいびん 北九州門司区
黒雲母 くろうんぼ 山口県宇布市	リチウム母 りちうもんぼ 福岡県西区	紅鱗片岩 べにりんぺんがん 愛媛県新居浜市	玉髓 たまぐさ 長崎県平戸市	チャート ちやうと 宮崎県高千穂町
黄鉄鉱 おうてつこう 北九州門司区	磁鉄鉱 じてつこう 北九州門司区	磁黄鉄 じやうおうてつ 大分県九重町	輝安鉱 きあんこう 熊本県天草市	アタカマ石 あたまませき 山口県萩市

▲体験教室で制作予定の鉱物標本（写真はイメージです）

みやこの歴史発見伝 100

「弥生」と「平安」みやこのブロンズ物語

— 青銅器をめぐる二つの遺跡からのメッセージ —

みなさんは博物館や美術館などで青銅器を見たことはありませんか。現在見ることができその姿は、「青銅 (bronze)」と呼ばれるとおり、青緑色に錆びていますが、かつては黄金色や白銀色に輝いていました。今回はそんな青銅器と青銅器づくりに欠かすことができない鑄型についてお話ししましょう。

青銅器の歴史

青銅器の歴史は古く、紀元前四千年ごろまで遡ります。日本からはるか遠く、メソポタミアの地で銅を溶かして型に流し込み、いろいろな器物を作ったのが始まりと言われています。

日本にその技術が初めて伝わったのは、紀元前数百年ごろの弥生時代になってからでした。大陸から渡来人と共に数々の新技術が日本に流入し、その中の一つが青銅器の鑄造の技術でした。その技術を用い、弥生時代には銅鏡、銅鐸、銅剣や銅矛・銅戈などが作られます。銅鐸は鈴のように音を鳴らすためのものから、やがて大型化し見せるためのものへと変化します。また、銅剣などの武器型の青銅器は最初、武器として日本に伝わりますが、やはり大型化し祭祀具として使用されました。

これらの青銅器の大型化は鑄造技術、特に鑄型製作技術の発達から可能となりました。みやこ町でも国作八反田遺跡から祭祀道具としての銅戈が出土しています。



▲国作八反田遺跡出土 銅戈

奈良時代になると仏教が広まり仏像や梵鐘などが盛んに青銅で作られました。有名な奈良の大仏も青銅製で、その鑄造技術の高さに驚かされます。

経筒とその鑄型

平安時代には末法思想が人々に広まり、釈迦の教え（經典）を大切に保管するため、経筒が多く作られるようになります。大事な經典を未来へと残すため、経筒の材質は耐久性に優れた石、陶器、青銅が採用されました。

みやこ町でも勝山松田の下田経塚から青銅製の経筒が2点発見されています。

す。さらに、みやこ町犀川の山鹿宮田遺跡では日本で唯一、経筒の鑄型の破片が3点出土しました。



▲下田経塚出土 経筒



▲山鹿宮田遺跡出土 経筒鑄型

鑄型とその周辺から見えてくるもの

いずれも土製の鑄型で、スサ（わら）入りの粘土で外形を作り、青銅が接する部分には非常にきめの細かい土を二層ほど塗り重ね仕上げられています。鑄型から経筒を復元すると、直径六・五cmほどで、端に1cmほどの覆輪状の膨らみがあるのがわかりました。

さらに、鑄型の形状から経筒がどのように鑄造されていたのかを知ることができます。この鑄型には経筒の半面のみが彫り込まれていました。これは「組み合わせ鑄型」と呼ばれるもので、



▲山鹿宮田遺跡出土 鑄造遺物
上段左「鉄滓」、下段右「鞆羽口」、のこりは「溶解炉」の破片

半面ずつ彫り込んだ鑄型を二つ作り、それらを合わせることで一つ一つの経筒を鑄造するものです。

山鹿宮田遺跡では鑄型以外にも青銅器の鑄造に関わる遺物（溶解炉や鞆羽口）が多く出土しています。鑄型と共にこれらは、かつてこの地で経筒が製作されていた証拠といえます。

また、この遺跡周辺には領主の館があったことを示すような小字が多く残っており、山鹿宮田遺跡は、経塚を作ろうとしたこの館の主が職人を招き、経筒を作らせた臨時工房跡だと考えられます。

今回紹介した経筒と鑄型はいずれも町の文化財に指定されており、前半でお話した銅戈と共に博物館に展示してあります。博物館に来られた際は、ぜひ間近でじっくりとご覧になってみてください。

(天野詩織)